

--JACD-- No.31 -- 7.15.2002
---Newsletter---

発行所

日本歯科色彩学会

発行人 片山伊九右衛門

〒350-0283 埼玉県坂戸市けやき台 1-1

明海大学歯学部保存修復学講座内

日本歯科色彩学会事務局

TEL 049-294-5429(会長宅)

FAX 049-294-5455(FAX専用)

副会長 潤田和好先生 ご逝去

6月1日午後5時 本会副会長 潤田和好先生がご逝去されました。慎んでお悔やみ申し上げます。

4月30日上野で開催された本会常任理事会では、お元気なお姿で「もう心配いらないから歯科用語集の編纂に熱をいれて取り組む」と発言され、その後の有志での懇親会にはお酒までのまれて、日本歯科色彩学会の今後について熱っぽく話されていました。一昨年から肝臓に症状が現れ、入退院を繰り返しておりました。精魂込めて描かれた油絵をご関係者に贈呈されておりましたので、ご自分では感ずることがあったのではないかと、今になっては推察されます。

慎んでご冥福をお祈りいたします。

合 掌

日本歯科色彩学会 第10回総会・学術大会のご案内

謹啓 学会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本大会は、日本歯科色彩学会の10周年という記念すべき大会であり、「漆黒の宇宙空間から青い惑星の色空間へ」がメインテーマであり、私たち人類が獲得した色の嗜好をテーマに特別講演を企画いたしました。

さらに会員の皆様の研究成果を発表する場として、口演発表とポスター発表がございますので、皆様が意見を交換する場として歯科色彩学の振興を計っていただければ幸いです。

また、学会員の親睦と旧交を温めて頂くことを目的として、下記の通り懇親会を企画いたしました。

29日(日)9:15からの総会には多数ご出席頂きますようお願い申し上げます。

謹 白

日 時：平成14年9月28日(土)・29日(日)

会 場：さいたまソニックシティビル 国際会議室

〒331-8669 埼玉県さいたま市桜木町 1-7-5 (JR大宮駅前)

内 容

■ 特別講演 服飾のカラーコーディネート

講 師 小川 陽子 先生

■ 特別講演 化粧ものがたり 赤・白・黒の世界

講 師 高橋 雅夫 先生

■ 一般講演 口演発表・ポスター発表

会 費：事前登録(7月31日以前) 会 員 5,000 円 非会員 6,000 円 学 生 500 円

当日登録(8月1日以降) 会 員 7,000 円 非会員 8,000 円 学 生 500 円

振込先口座番号 武蔵野銀行 東大宮支店(普) 182789

振込先口座名 第10回日本歯科色彩学会大会長 阪秀樹

懇親会のご案内

日 時：平成14年9月28日(土)午後6時より

会 場：パレスホテル大宮 4F ローズルーム西

〒331-8669 埼玉県さいたま市桜木町 1-7-5

参 加 費：8,000 円

申込方法：学会費と共に銀行振込にてお申し込み下さい。

申込〆切：平成14年7月31日(水)

申し込み先：学術大会・懇親会に〇をつけてFAX下さい。

大会事務局

〒330-0021 埼玉県さいたま市東大宮 1-12-35

埼玉歯科技工士専門学校

TEL 048-685-5211 FAX 048-685-5239

大 会 長 阪 秀樹

実行委員長 山鹿 洋一

「第 10 回学術大会」

学術大会・懇親会参加申込書

FAX 番号 048-685-5239

学術大会参加費 円×参加人数 人分
懇親会参加費 円×参加人数 人分を 月 日に振り込みました。

参加者ご氏名	所属名	お申し込み（○を付けて下さい）
		学術大会 ・ 懇親会
		学術大会 ・ 懇親会
		学術大会 ・ 懇親会

日本歯科色彩学会主催 講習会ご案内

日本歯科色彩学会会員サービスと併せて「日本歯科色彩学会認定制度資格試験」の一助として色彩学基礎講座を下記要領により開催いたします。

なお本講座の受講者には色彩感覚実技訓練をお受けいただき本会認定資格審査制度における有資格者制度の参加証を発行いたします。奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

1. 名 称：「歯科色彩学の基礎および色彩感覚実技訓練講習会」
2. 主 催：日本歯科色彩学会 共催 カラーランド研究所、セリック株式会社
後援：クインテッセンス出版(株) (株)松風

3. 開催日時：平成 14 年度 2 日間コース

開催地区：

北海道地区（札幌市北区北九条西 4-10-3 ガレリア 3 階）平成 14 年 8 月 24 日(土)、25 日(日)
九州地区（福岡市立福岡勤労青少年センターももちパレス）平成 14 年 8 月 31 日(土)、9 月 1 日(日)
名古屋地区（名古屋市中川区 N-インプラントセンター）平成 14 年 10 月 12 日(土)、13 日(日)

4. 募集対象：会員および歯科関係従事者(学生含む)

歯科医師・歯科技工士・研究者・メーカー・歯科衛生士・その他歯科関係者

5. 参 加 費：会員および学生 ¥15,000 円 非会員 ¥25,000 円

教材及び訓練資料代(会員及び学生 ¥5,000 円 非会員 ¥10,000 円)

6. 募集定員：各地区 30 名以内（申し込み受付先着順）

7. 応募受付方法：電話、Fax および E メールにて

(北海道地区、九州地区、名古屋地区)ご指定の上、下記宛お申し込み下さい。参加費ご入金確認後、参加書を郵送にてお送りいたします。

日本歯科色彩学会講習会 受け付け窓口および本学会会員にご相談下さい。

Tel 048-811-1911 Fax 048(811)1912 or 049-294-5455

EmailAddress : colorlan@beige.ocn.ne.jp

8. 参加費振込方法 銀行振込：富士銀行 さいたま新都心出張所 883

日本歯科色彩学会講習会 口座番号 3213188

歯科色彩基礎講習会テーマ内訳及び講師(一部変更あり)

- | | |
|------------------|-----------------|
| (1)色彩学基礎講座 | 元呑昭夫/細矢由美子 |
| (2)歯科の色表示と再現 | 片山伊九右衛門/元呑昭夫 |
| (3)シェードマッチング感覚訓練 | 元呑昭夫・小林高志 |
| (4)カラーデバイス理論 | 中澤 章 |
| (5)測色器操作 | 細矢由美子/元呑昭夫・中山知克 |

学術部長 阪 秀 樹

学術講習会担当 元 呑 昭 夫

第一回国際口腔審美性修復学術研討会に出席して 教訓：絶対に間違えることはないと思うことも起こる

天笠 光雄（東京医科歯科大学大学院顎顔面外科学教授）

片山伊九右衛門会長と元呑昭夫準備委員長に煽てられ、今回の学会に参加することになりました。本学会での出来事の一部を報告します。

2002年6月6日～6月9日、中国北京大学人民医院（医院は日本の病院）3階の講堂にて第一回国際口腔審美性修復学術研討会（中国語の直訳）が中華医学会学術部、北京大学人民医院と日本歯科色彩学会の共催という形で開催されました。日本からは総勢31名が出席しました。

6月6日8時30分から開会式が行われ、中国側大会長張震康中華口腔医学会長、史俊南教授、日本側大会長片山伊九右衛門教授らの挨拶にて、当学会開催の経緯や日中友好の場となるべき会であることが述べられた。9時30分以降、口演発表、午後5時よりポスター発表が行われ、活発で熱心な討論がなされた。講演発表は総数18（～21）題（日本発表10題）、ポスター19題（日本発表7題）、その他、技術・機械紹介、商業展示等があった。

講演については、松本光吉（昭和大）、片山 直（明海大）、天笠光雄（東京医歯大）、寺川國秀（日本歯科審美学会代表）、松尾通（日本歯科漂白研究会長）、阪秀樹（日本歯科技工学会長）、大竹登志子（東京老人総合研究所）、秋吉敏子（日本歯科衛生士会副会長）、岡部良博（明海大学）、山鹿洋一・小林高志（サヤカ株）、片山伊九右衛門（日本歯科色彩学会会長）らの各先生が発表された。

ポスターセッションでは、嘉山淳・岡部良博（明海大）、岩崎覚・片山直（明海大）、吉川政芳・大西孝宣、鐘ヶ江春秀（明海大）、堀田正人・関根源太（朝日大）、内山敏一・池見宅司（日大松戸歯学部）寺川國秀、中込敏夫、Qin Xiping（アルプス歯科）らの各先生が発表された。

国際学会では何が起こるか解らない。初日に口演発表で最も恐れていたことが起こった。日本側2人目の片山直先生の発表で、液晶プロジェクターが全く映らないのである。11時開始が13時に延期された。その間PCカードに保存してあったファイルを中国の先生のコンピューターにコピーして発表となった。次の天笠では、どうなるか冷や冷やしたが液晶プロジェクターは何事もなく、映った。ところが、次の発表予定であった史俊南教授の際にはやはり映らないのである。何度やってもだめであった。そこで、前回上手くいった天笠のコンピューターを貸せと言うので快く貸した。しかし、私のコンピューターには中国語の辞書は入っていなかったので、文字化けして駄目であった。ところが中国人のコンピューターに関する能力はすごいもので、ついに辞書までコピーし、パワーポインターは使えるようになった。しかし、いざ映写しようとしたところ何も映らないであった。明らかに何かおかしい。接続箇所を確認するも抜けていることは無かった。そこへ腹の大きな技術師が来て何やら大声で喋って接続コネクタを再接続したところ、映るのではないかと。どうやら無事に発表が終えた。何故事故は起きたか。事故は一人置きに起きたのである。コネクタの接続の固定はネジであったためにドライバーが必ず必要であった。このため、係りの協力が必要であった。私は神経質なので、準備に5分間休憩してもらい、自分でコネクタを挿入してからネジで止めてもらった。ここまで書くと何故事故が起こったか、お分かりかと思う。そうです。接続に使ったコードのコネクタが悪かったのである。コネクタは天地を間違えないように、全て台形になっていたが、今回使用したコネクタは天地を変えても挿入できたのである。暗いところで慌てて準備するとコネクタが挿入できれば、誰でも問題ないと思うものである。また、日本製品であれば絶対にこの様な天地を間違えて挿入することなど不可能である。絶対に間違えることは無いと信じていたところに間違いはあったのである。10数年前に、外国での講演ではスライドが映る映らないは半々、そのつもりで準備するのが良いと教えられた。今回、私は万一の場合を考えて、液晶プロジェクターと変圧器、そしてスライドも持参したが、終わってしまえば良い勉強をしたと思いました。

歓迎レセプションは、18時から開催され、日中の友好が深められ、初日は終了しました。翌7日から9日の学会最終日まで学会は恙無く無事終了した。

学会の合間には社会見学も行われた。天安門広場、故宮、万里の長城、十三陵墓など歴史的にも有名な施設を直接見る事ができたが、紙面の都合で、この辺で筆を置くが、私にとっては、中国訪問は初めてであり、中国を知る絶好の機会であった。片山会長ならびにご一緒していただいた学会参加者、学会開催にご協力を頂いた関係各位に感謝申し上げます。謝謝。

80th IADRでの色彩学研究

San diego で行われた 80th IADR (The International Association for Dental Research) で発表の機会があつて参加した。

San diego はアメリカの西海岸でメキシコに近い軍港で、また綺麗なリゾートでもあつた。

2002 年 3 月 5～9 日の会議中では特別講演やシンポジウムが複数会場で行われ、業者展示は多くはなく、日本からはジーン、モリタ、松風が見られた。大きくないダウントウンには会員が溢れ、この方たちが世界でも優秀な歯科研究者であるかと感激した。すべての発表を聞く訳にはいかないが、4 日間にわたるポスターセッション 4155 題は一応目を通した。日本からは 31 題があつた。日本歯科色彩学会役員の参加では鶴見大の河野篤理事、長崎の細矢常任理事、昭和大の東光常任理事、日歯大新潟の新海理事、山口理事、朝日大の堀田理事の各氏が頑張っていた。内容は補綴、保存、歯周、矯正はじめ臨床・基礎各科が多く占めた。各論としてはインプラント、Composite などが多かったが、接着、漂白部門は集人度が目だつて多かった。

色彩は抄録集でのキーワードでは 78 題であり、アメリカが多数を占め、次いで日本、ドイツ、中国であり。ペルー、英国、ニュージーランド、トルコも見られた。色に関係する演題は数えると 186 題と多かった。日本からは岩手医大の石橋寛二講座から 8 題もあつた。鶴見大の桃井保子先生や日歯大新潟の山口先生は積極的に流暢な英語で質問を受けていた。

色彩に関する内容はセラミック、コンポジット、コンポーマー、エナメル、象牙質、歯肉(歯周病)、シェードガイド、義歯が対象で、漂白、ホワイトニングには多くの人が集つた。歯磨剤やチューニングガムもいくつか発表されていた。我々の発表は歯磨き剤による歯の色彩変化であるが、アパタイトに対する質問が多く、日本から参加した、株式会社サンギ中央研究所の石崎氏のアパタイトに対する豊富な知識を借りて、応答した。また光源、測色計やレーザー、弗素、ステインなどの影響も見られた。CCM, CMC は当然岩手医大であることは言うまでもない。

表色は $L^* a^* b^*$ が殆どで、 $\Delta E^* ab$ 色差が多用されていた。 $\Delta E^* ab$ 色差が正しいかを問い、 ΔL , Δa , Δb の三次元色空間図を薦めていたものもあつた。私は細矢先生にこの方法なら ΔL (明度), Δc (彩度), Δh (色相) のほうが簡単と相槌を求めた。 a と b を単独に考えるのは説明としては簡単であるが、 a と b (彩度・色相) は一体で両者は別にすべきでないと言うのが私の持論である。測色計の違いについては、印刷物や自動車の塗装のようなものでなく、半透明な歯を対象となる歯科の研究では、光りの逃げが大きく左右されるので、厚さの違いとか、測定条件の違いなど、このような問題を提起して欲しかった。

色を見るに最も重要な色覚によるカラーマッチングと測色計との比較は殆ど見られなかった。今回は色彩に関する発表は多くあつたが、殆どは経時的な色変化をみており、何故色が変わったかの追及は多くなかった。なおシェードガイドによる色合わせの用語は、私はシェードよりカラーマッチングを用いるが、歯科の通用語として、今回の発表では全部がシェードマッチングであつた。歯科の色彩慣用語も一般での色彩用語への統一が必要であると思われた。日本歯科色彩学会用語委員会がまもなく用語集を発行すると聞くと、この点を十分討議して欲しいし、日本歯科色彩学会主催の講習会でも統一意見で望んで欲しい。

片山 伊九右衛門

お知らせ

1. 今年度新会員のお名前のみ紹介いたします。順不同 敬称略

平山総司、鈴木英明、日本歯科大学図書館、内山敏一、川本幸司、辻本泰久、山崎宗与、遠藤為成、藤下昌代、小野里佳子、白石充、木村大各先生。まもなく名簿が発行されます。

2. 日本歯科色彩学会主催または後援の国際学会は皆様のご後援で無事盛大に成功裡に終了いたしました。

* 日本歯科漂白研究会 国際シンポジウム「美白の世界」最新の審美歯科

2002 年 4 月 20～21 日 日本歯科大学富士見ホール

* 日本歯科色彩学会 国際学会 第 1 届国際口腔審美性修復学術研究会

2002 年 6 月 8～9 日 北京大学人民医院

* 日本成人矯正歯科学会 国際大会 21 世紀の矯正歯科医療を求めて 「医療は包括医療です」

2002 年 6 月 22～25 日 日本青年会館

3. 講習会受講、認定士の募集をいたしております。

4. ニュースレターの記事を募集しております。